

## 支部総会（6支部）

全国の支部活動のご紹介です。同窓生の皆様には各県支部に入会頂き、同窓生のつながりを深めて頂きたいと思えます。お問い合わせは、P 25の支部長一覧をご参照下さい。支部総会開催の際は、事務局までご連絡ください。

YAMAGATA

### 山形県支部総会

令和5年9月16日、山形市内のホテルメトロポリタン山形で山形県支部総会が開催されました。当日は同窓会本部から森林科学科の大久保達弘先生をお迎えし、県内各地から同窓生29名が集いました。

総会は佐藤淳司支部長（農化S45卒）の挨拶に始まり、議長に選出された丸山修氏（新開S46卒）の進行により事業報告、会計報告が速やかに進められました。また役員改選では新支部長に田中順一氏（新農S46卒）、新副支部長に安田弘法氏（新農S55卒）が選出され満場一致で承認されました。

総会終了後は、伊藤登啓（新畜S37卒）のご発声により懇親会が始まりました。各人の近況報告や学生時代の思い出話などが語られ大いに盛り上がりしました。

来賓の大久保先生からは、大学の近況や農学部創立100周年記念行事の取組、宇都宮市の街の様子などの報告をし



ていただき、大学や宇都宮の街を懐かしく感じながら聞き入っていました。

山形県支部総会の開催は、例年隔年開催をしていましたが、コロナ禍の影響により今回は5年ぶりの開催となりました。2年後の次回総会では、さらに多くの同窓生の皆様の出席を期待いたします。

（平7森卒 上野 満）

HUKUSIMA

### 福島県支部総会

福島県支部総会は令和5年11月11日(土)に郡山市「姑娘飯店（くうにゃんはんてん）」において、会員27名の出席のもと盛大に開催されました。

コロナ禍の中、令和2・3・4年度は開催を中止し、書面議決で役員改選等を行ってきました。コロナを取り巻く状況も変わってきたことから今年度は開催することとし、準備を進めてきました。

総会では、後藤達夫支部長（農経S46卒）の挨拶に始まり、来賓として同窓会本部から出席いただきました福井えみ子教授より総会開催に当たって、お祝いの言葉と大学の近況等についてお話をいただきました。特に来週、11月18日は農学部100周年記念式典が開催されるお忙しい中、本総会に出席いただきました福井教授には感謝を申し上げます。

奇しくも中止前の令和元年度の総会に福井先生にお出でいただき、再開した今年度の総会にもお出でいただいたということは何かの縁でしょうか。総会ではスムーズな議事進行により、支部活動経過、収支決算報告が承認され、終了後、恒例の記念撮影を行いました。

続いて、この3年間で鬼籍に入られた先輩諸氏へ黙祷を



行い、懇親会へと移りました。懇親会では各会員とも年齢差を感じさせない飲みっぷりで盛り上がり、峰ヶ丘時代の思い出やお互いの近況などの話題に花を咲かせ楽しいひと時を過ごしました。

その後、宇都宮大学歌を声高らかに大合唱し、来年度の再会を誓い散会となりました。同窓会のあり方等状況も変化しておりますが、令和6年度の総会は福島市で同時期の開催を予定しております。県内在住の同窓生の皆様には御案内をお送りしますので多数の出席をお願いいたします。

最後にご来賓としてご出席いただきました福井教授、並びに同窓会本部事務局に御礼を申し上げます。

（事務局長 昭50農卒 高梨 公）

TOCHIGI

### 栃木県庁支部総会・懇談会

令和6年8月29日に、ホテルニューイタヤ（宇都宮市）において、栃木県庁支部定期総会・懇談会を開催いたしました。

当日は、業務等で御多忙の中、また、ゲリラ豪雨が降りしきる中、昨年度に増して多くの皆様にお集まりいただき

ました。心から感謝申し上げます。

定期総会については、新型コロナウイルス感染症の影響等により5年ぶりに対面形式での開催となり、峰ヶ丘同窓会から宇田同窓会長、杉本副会長、房理事長、そして山根農学部長に御臨席いただきました。議事は滞りなく進み、全ての議案が承認され、支部長には、令和5年度に引き続き柴田和幸氏（化H2卒・現 栃木県農業総合研究セン

ター所長)が選任されました。

総会に続いて開催した懇談会では、来賓を含めて総勢64名の出席のもと盛大に開催できました。柴田支部長の挨拶に続き、宇田同窓会長からはお祝いの言葉とともに、乾杯の御発声をいただきました。新たに入会した会員も含め、今年度は例年以上に若い会員の出席者が多い中、立場や世代に関わらず交流の輪が広がり、宇大にまつわる思い出話に花を咲かせ、楽しい一時を過ごすことができました。

地元栃木県の支部として、これからも同窓会を盛り上げて参りたいと思いますので、引き続きよろしくお願いたします。



(平20生殖卒 会田 智明)

## IWATE 岩手支部総会

宇都宮大学峰ヶ丘同窓会岩手支部は、令和5年8月26日(土)、盛岡駅前の開運橋近くにある「遠野物語」において、令和元年以来4年ぶりとなる総会を開催しました。

同窓会本部から森林科学科の大久保達弘教授(林S57卒)を御来賓として御招きし、会員18名が参加しました。

総会では山口和彦支部長(農S45卒)が、新型コロナの影響から4年ぶりに開催できたことを祝し挨拶したのち、4年度分の事業会計報告や役員改選を行いました。

総会終了後は懇親会に移り、新支部長となった小池俊吉氏(農経S44卒)の乾杯で始まり、大久保教授から大学の近況や農学部100周年記念事業などの同窓会本部の活動等について御紹介いただきました。

久しぶりの開催であったことや、若い方の参加が多かったこともあり、大変盛り上がりました。

最後に、新たに副支部長となった菊池則道氏(畜S49



卒)が1年後の再開を願い、お開きとしました。

今回4年ぶりの開催にあたっては、新たに参加いただいた方がいる一方で、転居により宛先不在の方もいました。同窓会本部の御協力をいただいで最新の情報を得ながら、引き続き、多くの参加を得て盛り上げていきたいと思ひます。

(昭63林卒 及川 明宏)

## AKITA 秋田県支部総会

新型コロナウイルス感染症が5類に以降したことを受け、令和5年12月2日(土)に秋田キャッスルホテルにて、宇都宮大学峰ヶ丘同窓会秋田県支部総会を4年ぶりに開催することができましたので皆様にご報告いたします。

最初に秋田県支部の現状であります、宇都宮農林専門学校時代の卒業生を含め、約200名の会員で構成されています。名称変更はありますが、農学・林学・農業工学・農業経済学の卒業生がおり、一堂に会する唯一の機会がこの総会となっています。

総会当日は、本部より宇都宮大学農業環境工学科の松井宏之先生をお招きし、大学の近況についてご報告いただきました。また、その後の交流会では、教え子との再会や秋田の郷土料理(いぶりがっこ、ぼだっこ等)を堪能していただきました。みぞれが降る悪天候の日取りでしたが、足を運んでくださった先生には感謝を申し上げます。

会員同士の交流では、秋田米の新品種「サキホコレ」や熊による被害、豪雨災害等、令和5年に県内で話題となった話で盛り上がりました。また、会場にこられなかった



方々の一部からは、はがきで近況報告を受けており、それを皆様に情報共有するなど、会員の活躍を皆で喜びました。

最後に、コロナの影響で4年ぶりの通常開催となり、いろいろと不安がありましたが、会員の皆様から予想以上の反響があり、無事に開催することができました。

たいへん有意義な会となりましたので、長年開催できていない支部におかれましては、是非、再開を検討してみたいかがでしょうか。

(平24環卒 伊藤 隆史)

MIYAGI

## 宮城支部総会

コロナ禍等の影響により、休止していた峰ヶ丘同窓会宮城支部総会が、令和6年1月27日、仙台市内の「TKPガーデンシティPREMIUM仙台西口」にて、会員23名出席のもと、4年ぶりに開催されました。

当日は、支部長の氏家清明氏（畜産学科19回）の挨拶で開会し、同窓会本部から来賓として出席いただいた香川清彦先生に大学の近況等についてお話をいただきました。次いで、氏家支部長を議長に事業計画等について議事が進められ、原案どおり承認されました。

引き続き行われた懇親会では、香川先生を囲んで大学時代の思い出や互いの近況話に花を咲かせました。最後は、通例となっている大学歌、コチャ工節等を全員で合唱しました。

4年ぶりの支部総会ではありましたが、久しぶりの再会



を楽しみ、最後に、新支部長に就任した勝又敏彦氏（林学科27回）から、支部活動の再スタートと来年の再会を誓い散会となりました。

宮城支部としては、今後も総会、役員会の他、交流会を定期的に関きながら、親睦を図ってまいります。

（平4農卒 北奥 真一）

## 教 員 海 外 学 会

# International Society of Root Research 12th International Symposium Roots [& Roads] to a sustainable future に参加して

2024年6月2日から7日にかけて、ドイツのライプツィヒで開催された根の国際学会に参加した。学会においては、「Dynamic lateral root response to local phosphorus distribution improves phosphorus acquisition by wheat」のタイトルで口頭発表をした。発表では、リン酸施肥量は同量でも局所的な施用によりコムギの生育が2倍以上に改善すること、この生育改善に根から分岐する側根の土壌中のリン酸濃度に応じた可塑的な発達に関与していること、を示した。局所施肥に対する側根の動的な反応を動画で詳細に示したことから、聴衆の反応は良く、手法に関する質問などがあった。

学会中は、養分吸収や根系発達に関するモデリングを実施している研究者と交流を深め、科研費を応募する際に共同研究者になってもらえる約束を取り付けた。また、新たな手法に関する情報も得ることができたので、今後、自身の研究においても活用していきたい。近年の研究の傾向としては、X線CTを使った非破壊での根の計測や、深層学習を用いた画像解析技術を用いた大型の根系フェノタイプングに関わる発表が増えてきた。また、根系および根圏微生物の叢解析や、根の炭素貯留に関する発表も多くなってきた印象を受けた。



開催場所であるライプツィヒには「音楽の父」バッハの墓があり、到着した日が土曜日であったから複数の広場でライブが開催されていた。広場には、ビールとホットドックのスタンドがあり、音楽を聴きながらビールとホットドックを堪能することができた。一方、学会で食べる食事は全てベジタリアンもしくはビーガン食であり、ヨーロッパでの食文化が変化しつつあることを実感した。

最後に、国際学会への支援をしてくださった峰ヶ丘同窓会の皆様に心より御礼申し上げます。

（文責：生物資源科学科 神山 拓也）